

教育実習Ⅶ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 講師 牧 亮 太

1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする学生を対象とした「教育実習Ⅶ（幼）」は、本学初等教育学科幼児教育コースに所属する学生が初めて保育の現場に触れる授業である。その目的は、幼稚園教育の実際に触れて保育を理解すること、教職への意欲を高めることである。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
オリエンテーション	4月	・本実習の意義・目的・心構え等を確認する。 ・本実習の流れ、実習①～③の目的、実習の手続き等を確認する。
実習①	4～5月	・事前学修を行い、課題の確認をする。 ・幼児教育の実態を知ることが目的とした観察実習を行う。 ・事後学修を行い、幼稚園の1日および気づき・疑問を確認する。
実習②	5～6月	・事前学修を行い、目標を設定し、日誌の書き方を学修する。 ・設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 ・事後学修を行い、日誌を書く上での要点を整理する。また事例検討を通して、幼児・保育者の関わり・環境の理解を深める。
実習③	6～7月	・事前学修を行い、実習②での気づきをもとに目標を設定する。 ・設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 ・事後学修を行い、幼児・保育者の関わり・環境に関する理解を深め、報告会の準備を行う。
報告会	7月	・事例をもとにして、実習③での気づきを発表する。質疑応答を通して、気づき・学びを深める。
まとめ	7月	・報告会での学びを確認し、授業全体のふりかえりを行う。

3 活動の概要

(1) 各実習の概要

段階的に学びを深めていくために、実習ごとにねらいを設定した。実習①では、幼稚園における幼児の姿を知ること、幼児の様子を観察するなかで生じる思考・感情に自覚的になり記述することの2点、実習②では子どもの気持ちを推測しながら事例を記述すること、事例をもとにグループ討議を行い、自分たちなりの結論を導くこと、実習③では、自分たちが導いた結論を具体的事実や省察に基づきながら他者に論理的に説明することの1点であった。

(2) 教育実習Ⅶを通して学んだこと

《ふりかえりアンケートの結果より》

ふりかえりにおいて、「子ども」「子どもへの関わり方」「保育環境」に関する理解がどの程度深まったのか、それぞれの理解には何が役に立ったかを尋ねるアンケートを実施した。理解の深まりについては、「5：非常に深まった」～「1：深まらなかった」から当てはまるものを1つ選んでもらい、平均得点を算出した（表1）。役に立った内容については、それぞれの理解に役立ったと思う内容を選択肢の中から全て選んでもらい、選択した学生の割合を算出した（表1）。

表1. ふりかえりアンケートの結果

	理解の深まり	役に立った内容 (%)				
		子どもとの関わり	観察	保育者の指導	日誌	話し合い
子ども	4.17	91.7	81.3	79.2	54.2	64.6
子どもへの関わり方	4.17	75.0	89.6	93.8	41.7	52.1
保育環境	4.04	-	97.9	72.9	52.1	50.0

《報告書より（抜粋）》

- ・「私は実習を通して、子どもの成長の早さを学んだ。実習に行くまで、あまり子どもとかかわる機会がなかったため、子どもの成長というのがこんなにも早いとは知らなかった。」「その成長でも個人差があり、一人ひとりの成長に合わせて対応していくことが大切だと感じた。」
- ・「観察実習を通して、「分かったつもり」でいることが多いと分かった。（中略）大切なのはメモを取るのではなく、保育者の関わり方や子どもの活動、反応をしっかり観察し、その動機を理解することだと学んだ。それは実習時だけでなく、普段の授業でも言えることではないかと思った。」
- ・「実習Ⅶを終えて今後の課題の1つとして、弾き歌いの練習を続けることと決めた。」「また、子どものことをもっと理解し対応していけるように、もっと上手く子どもと遊ぶことができるように、夏休み中に保育のボランティアに取り組みたいと考えている。」

4 成果と課題

今年度の主な変更点は、(i) 実習①を踏まえた日誌の指導、(ii) お礼状の指導について他教科への依頼、(iii) 手あそびや絵本の読み聞かせの実践機会の確保、(iv) まとめ回の実施、の4つであった。(i) については実習①で把握した1日の流れに沿いながら日誌を書く練習を行った。実習先の保育に即した形での指導を行うことで、学生も具体的なイメージを持ちながら学ぶことができたと思われる。(ii) に関しては、1年次後期の授業で学修済であったため、それをもとにお礼状を書くという課題を出した。例文を示さなかったことにより、それぞれの感謝の気持ちがしたためられたお礼状となった。(iii) については、実習先に実践機会の確保をお願いしていることを学生に伝えてあった。そのため、実習メンバーで手あそびの練習をするなどの自主的な学びの姿勢がうかがえた。(iv) については、まとめ回において報告会での議論について振り返ったり、報告会での感想を発表し合ったりすることで報告会での学びを深めることができた。また、実習Ⅶを通して学んだことを整理し、今後の実習で身につけていく知識や技術について見通しを持つことができた。

一方、次年度に向けての課題として、グループでの話し合いの活性化が挙げられる。話し合いの時間になってもスムーズに活動が始まらないような場面が何度か見られたため、話し合いの目的を明示するだけでなく、それまでの取り組み、これからの取り組みとどのように関わるのか、その位置づけについても説明する必要がある。